

日ごろから気を付けよう 子どもが巻き込まれる事故

自宅から半径500m以内での事故が多い

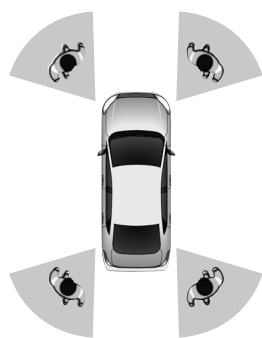
子どもは、親や周りの大人にとって、思いがけない行動や反応をします。運転者の皆さんは子どもを見かけたら、徐行するなど、思いやりを持った運転を心がけましょう。

警視庁の統計によると、子どもの交通事故は①飛び出しによる事故、②道路横断中、③自宅から500m以内で起こるといった特徴があります。

ピラー(柱)の作る“死角”

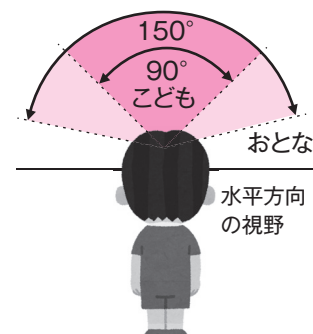
車のピラー(柱)が作る死角には注意しましょう。

右左折時などに歩行者を見落とすことがあります。特に子どもが死角に入ると確認しづらいため、必ず目視やミラーで前方や後方の確認をしましょう。



子どもの視野は 大人の3分の2程度

目が物の有無(気配)を察知できる範囲は、大人で左右に約150度です。これに対して、子どもは左右に約90度。それだけ子どもは、車の気配を察知しにくいのです。



参考文献: スティナ・サンデルス「交通のなかの子ども」

人ごとではありません 高齢者の事故

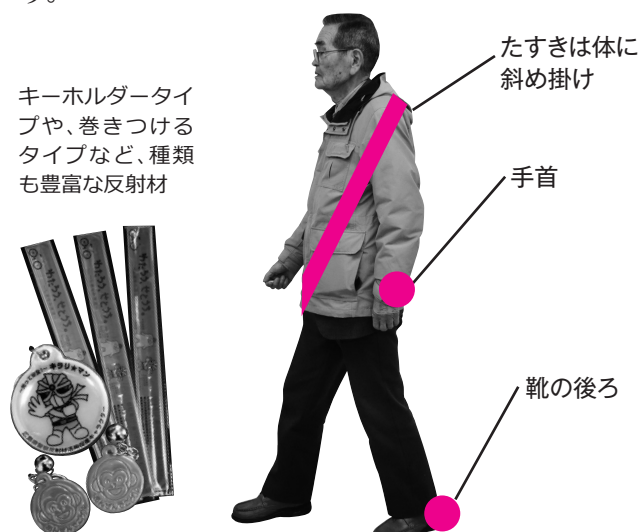
尾道市内での昨年の交通事故 死者数7人のうち高齢者が5人

内閣府によると、高齢者の交通事故死者のうち、最も多いのが歩行中の交通事故死で、次いで自動車乗車中の順になっています。

加齢に伴い、運動能力や身体機能が低下します。ゆとりを持って行動しましょう。

夜間の外出時の必需品! 反射材はここにつけよう

夜間は黒っぽい服装では、ドライバーから歩行者や自転車が見えにくく、重大な交通事故が起こりやすくなります。明るい服装や反射材を着用しましょう。



キーホルダータイプや、巻きつけるタイプなど、種類も豊富な反射材

運転免許証返納を 考えてみませんか

高齢社会が今後ますます進む中、高齢者の交通事故対策には、高齢者本人だけでなく周囲の人の協力も重要です。免許返納について考えてみましょう。

免許証を返納した人へ 支援制度があります

- 尾道警察署管内(因島地区・瀬戸田地区・浦崎町を除く。)尾道地区タクシー協議会が委託した尾道交通安全協会が発行するタクシー割引券 ※65歳以上の安全協会会員(新規入会者も可)。
- 因島警察署管内 因の島運輸株式会社が運行する因島島内の路線バス運賃が半額 ※年齢制限なし。

運転免許証返納のご相談は…

- ☎尾道警察署交通課(☎0848-22-0110)
- ☎因島警察署地域交通課(☎0845-22-0110)
- ☎福山西警察署交通課(☎084-933-0110)

75歳以上のドライバーの皆さん 道路交通法改正により免許制度が変わります

- 特定の違反行為をしたときは、「臨時認知機能検査」を受けなければなりません。
- 臨時認知機能検査で「認知機能の低下のおそれがある」と判断された場合は「臨時高齢者講習」を受けなければなりません。
- 認知機能検査または臨時認知機能検査で「認知症のおそれがある」と判断された場合は、臨時適性検査の受検、または医師の診断書を提出しなければなりません。

※臨時認知機能検査や臨時高齢者講習を受けなかった場合は、免許取消や免許停止になります。

家族で チェック

運転時認知障害早期発見リスト30(一部抜粋)

- 以前ほど車の汚れが気にならず、あまり洗車をしなくなった。
- 好きだったドライブに行く回数が減った。
- 車のキーや免許証などを探し回ることがある。
- 高速道路を利用することが怖く(苦手)になった。
- スーパーなどの駐車場で自分の車を停めた位置が分からなくなることがある。

※NPO法人高齢者安全運転支援研究会ホームページに全文掲載。
<http://sdsd.jp/untenjiniunchisyougai/checklist30/>

提供: NPO法人高齢者安全運転支援研究会
監修: 日本認知症予防学会理事長、NPO法人高齢者安全運転支援研究会理事
鳥取大学医学部教授 浦上克哉

入学前のお子さんと一緒に 通学路を歩いてみましょう

CHALLENGE

4月は、保育所や幼稚園に通っていた子どもたちが、小学校に入学する時期です。小学校に入学すると、登下校を含めて一人で行動することが多くなります。子どもたちが交通事故に巻き込まれないよう、通学路のどこに危険が潜んでいるか確認しながら一緒に歩いてみましょう。



交通指導員
奥村明子さん

増えています 高齢ドライバーの事故

近年、高齢者が交通事故の被害者だけでなく加害者になるケースも増えています。その背景には、高齢者人口の増加に加え、身体能力の低下など高齢者特有の事情も影響しています。

- アクセルとブレーキの踏み間違いなどの「運転誤操作」
- 注意力が散漫になり相手の認識が遅れる等の「漫然運転」
- 十分な安全確認をしないことによって起こる「安全不確認」

先進安全自動車(ASV)の 乗車体験をしました

2月15日、向東町で、先進安全自動車(ASV)の乗車体験が行われました。

現在、交通事故防止のため、先進安全自動車(ASV)の普及が進んでいます。

皆さんも、車の購入される際には、先進安全自動車(ASV)の検討をされてはいかがでしょうか。

先進安全自動車(ASV)とは?
ドライバーの安全運転を支援するため、先進技術を利用して、「衝突被害軽減ブレーキ」「車線逸脱警報装置」「車間距離制御装置」などを搭載した自動車。



▲「衝突被害軽減ブレーキ」が付いた車を試乗

VOICE

「楽しみながら、先進安全自動車の乗車体験ができました。しかし、これはあくまでドライバーの安全運転を支援するものです。決してシステムを過信することがないよう、安全運転を心掛けなければならぬと改めて思いました。」



尾道地区交通安全母の会
柿本真弓さん